



感染対策を徹底して、実りの秋を充実させよう！

42日間の夏休みも終わり、今日から前期後半がスタートしました。まだまだ残暑厳しい毎日が続いていますが、暦の上ではもう「秋」です。秋と言えば「読書の秋」「芸術の秋」「食欲の秋」等、いろいろな言葉で表現されますが、暑かった夏に対して、じっくり腰をすえて何かに取り組むには最適の季節です。引地川沿いの田んぼの稲穂も実り、黄金色に輝いている景色を見ることができます。子どもたちにもこの稲穂のように、この秋に自分の夢や目標につながる何かをじっくりと実らせてくれたらと思っています。

さて、新型コロナウイルスの感染状況は、全国的に「第5波」ともいわれる拡大傾向が続いております。また、これまでのウイルスとは異なり、現在蔓延している「デルタ株」は感染力が強く、10代の若年層にも感染者が急拡大しており、学校が再開することで今後さらに事態が深刻化するのではないかと懸念されています。このような状況下において生徒の安全・安心を確保して教育活動を継続していくためには教職員はもちろん、生徒一人ひとり、そして保護者の皆様が危機感を共有し、感染防止対策を徹底していくことが不可欠です。すでにメールで連絡させていただきましたが、家庭内感染から学校での感染拡大防止のため、藤沢市の対応として次のとおりとなりました。

- ・同居家族に発熱や風邪症状等がある場合は、生徒を出席停止とすること。
(ワクチン接種の副反応と思われる場合でも同様の症状がある場合は出席停止となります。)
- ・同居家族が濃厚接触者となった場合、濃厚接触者の健康観察期間が終了するまで、生徒を出席停止とすること。
- *生徒の健康調査票に同居家族の健康状態を確認する欄が追加されました。

本校としても学校再開に向けて、次のような対応をとらせていただきます。

- ・9/1(水)～10(金)までを午前中授業(9/6～8は前期期末試験)とする。
- ・各クラスを出席番号による2分割とした時差登校とする。(詳細は別紙)
- ・昇降口で健康観察カードのチェックをする。(毎朝自宅で必ず検温をお願いします)
- ・9/1(水)～12(日)まで部活動なし。

さらに学校行事については次のように変更させていただきます。

①3年生の修学旅行 10/18(月)～20(水)に延期

②文化部発表会 9/22(水) 体育館で吹奏楽部・合唱部・科学部の発表を行い、その他の生徒は各教室においてリモートで視聴する。
(美術部・ボランティア部の展示については改めて期間を設ける。)

*前号の学校便りにおいて「体育館で発表する文化部の3年保護者(各家庭1名)の皆様にはお子様の部活の発表時のみ参観を可とする予定です。」とお知らせしておりましたが、市のガイドラインで観客を入れての発表ができなくなりました。したがって、昨年度の合唱祭のようにリアルタイムでYouTubeによる配信を予定しておりますので、ご利用いただければ幸いです。

③合唱祭 後日に延期(詳細については決まり次第ご連絡いたします。)

子どもたちが楽しみにしていた行事等も延期や制限が加えられ、学校としても大変心苦しく思いますが、まずは安心・安全を優先にして教育活動を再開して参りますので、何卒、ご理解・ご協力よろしくお願いいたします。

オリンピック・パラリンピックから感じたこと・・・

8月8日、東京オリンピックは17日間の大会日程を終え、幕を閉じました。新型コロナウイルス感染拡大で1年間の延期に加え、大部分の会場が無観客となるなど、異例すくめの大会でしたが、期待通りの素晴らしい大会ではなかったかと思っています。

私が大会を通して改めて感じたことは、特に次の4点です。1点目は目標に向かって日々努力することはもちろんですが、どう頑張るかが重要なポイントであるということです。言い換えれば、たくさん時間をかけて練習を積み重ねれば、メダルが取れるのではなく、自分としっかり向き合って課題を明確にして、工夫してトレーニングすることが大切であるということです。しかし、このような努力を続ければ、必ず勝てるかと言えば、そうではありません。体操の内村選手やバドミントンの桃田選手のようにメダルが期待される選手でも思い通りの結果が出せないこともあります。以前にも述べましたが、「頑張っても成功できるとは限りません。しかし、頑張らないと成功は得られない。」ということです。

2点目は観ている人を感動させるのは、大会結果ではなく、その選手が競技にどう臨んでいるかということです。私自身、今大会で印象に残った場面はたくさんありますが、敢えて挙げるとすれば、サッカーの久保建英選手が3位決定のメキシコ戦に敗れたとき、ピッチに座り込んで人目をばからずに大泣きしていたシーン。彼のこの大会にかける思いが十分に伝わってくる涙でした。そして、もう一つは世界ランク1位でこのオリンピックに臨んだバドミントンの福島・廣田ペアが準々決勝で敗れたシーン。大会前、廣田選手は手術が必要なほどの脚の大けがをしたにも関わらず、懸命にリハビリを続け、大会に臨み、福島選手もそれを何とかカバーしようと懸命にプレーした試合はとても感動的でした。さまざまな競技で金メダルを獲った場面も素晴らしかったですが、メダルに届かなくても熱いものがこみ上げてくる場面でした。

また、私事で恐縮ですが、サーフィン女子で都築有夢路選手が銅メダルを獲得したことは本当に感激しました。（湘洋中時代の教え子なので・・・）

そして、東京パラリンピックが8月24日から開幕しました。開会式で「WE HAVE WINGS（我々には翼がある）」をコンセプトに行なわれたパフォーマンスが海外でも感動を生んでいます。ここで披露された演劇「片翼の小さな飛行機」は翼が1つしかないために飛ぶことを躊躇する少女が最後には前に踏み出す決意を固め、約20メートルの滑走路を車いすで走り、無事に飛び立つという物語です。この一連の物語は、困難を乗り越えて戦いに臨むアスリートたちの姿が重ねられています。25日から始まった競技でも、さまざまな障害を乗り越え、自分の限られた能力を最大限に発揮して躍動するアスリートの姿が見られます。

現在、私たちもコロナ禍のために日常生活において様々な制限が加えられていますが、彼らの活躍ぶりを見るにつけ、今できることを精一杯取り組む大切さを改めて痛感いたします。

部活動においても“熱い”夏でした！

夏休み中、運動部の中には湘南地区大会、県大会と勝ち進み、全力で試合に臨んだ選手が数多くいました。陸上競技部も8/24、25に県立スポーツセンターで市内陸上が開催され、暑い中、ベストを尽くしました。また、運動部だけではなく、文化部もさまざまな大会に参加して活躍しました。7/28（水）には科学部が辻堂海浜公園で実施されたゴム動力飛行体大会に参加しました。結果は練習通りとは行きませんが、その活躍ぶりは次のようにタウンニュースにも取り上げられました。



部活で練習時に使った機体は40秒以上飛んだが、そのまま行方不明で予備機で挑んだ。結果は1秒ほどで「水平尾翼の調整を念入りにしたが本番で発揮できず悔しい。来年は最低でも1分を目指す」と再起を誓った。

7/29（木）には茅ヶ崎市民文化会館で湘南吹奏楽コンクールが開催され、本校吹奏楽部はトップバッターとして登場し、緊張感のある中で精一杯の演奏を繰り広げました。指揮者を中心に心一つにして真剣な表情で楽器を演奏する姿は胸打たれるものがありました。

7/31（土）には藤沢市民会館でふじさわ合唱祭が開催され、一般の方や高校生の合唱団に混じって本校の合唱部も参加しました。中学生らしい透き通るような歌声は聴いている人を魅了しました。ボランティア部や美術部も含め、今後の文化部発表会での活躍が楽しみです。